

[制作記録]

憎しみの連鎖

後 藤 徹

夫婦ユニットで作った絵本「くるりんぱ」をきっかけに、(社)日本ユネスコ協会連盟(以下日ユ協)とご縁ができ、世界寺子屋運動*を通して社会貢献活動に参加してから早いもので10年が過ぎようとしている。活動を通してカンボジア、ベトナム、インド、アフガニスタンなどのアジアの辺境の地で戦争のための貧困、差別のための迫害を受け、必要な教育を受けられない子供たちと実際にワークショップなどを通して関わることによって、今までであるのがあたり前と思っていた、[平和][教育][安全]がこんなにも人が生きていく上で、いかに大切なことかということを知らされた10年と言えるかもしれない。

日ユ協の方たちがよく口にする「憎しみの連鎖を断ち切る」というキーワードがある。強く重い言葉だ。実際に、平和な社会で暮らしている我々日本人にとって、人を「憎む」という事はよっぽどの事でないとしてこない感情である。しかし、ベトナム戦争で両親を亡くしたベトナムの子供たちの話を聞いたり、カンボジアでは、ポルポト派クメール・ルージュの体制下で、愛する家族全員を目の前で殺された老人の話を実際に聞くと、「憎しみ」は消す事のできない「悲しみ」と同じ感情であり、もし自分自身の家族にも同じ悲惨な事が起こり、愛する者を殺されたら、自分も相手を憎み、仕返しをしてやると自然に思うに違いない。復讐心が生まれ、殺され⇒殺し⇒殺され⇒殺すという“憎しみの連鎖”は、世代を超え、あるいは時代を越えて、その感情は受け継がれていく。そこを断ち切らない限り、戦争は決して無くならないという根源的な意味のキーワードである。

2004年頃の事である。こんな事があり、さらに

自分にとって、この言葉顔が重くのしかかってきた。

今となっては世界一危険で、戦争の泥沼から全く抜け出せない状態になってしまったアフガニスタンではあるが、2004年頃は、平和が戻りつつあり、実際にアフガニスタンで寺子屋を作り子供たちに教鞭を取っている日ユ協の方から、「後藤さん、子供たちが“くるりんぱ”を楽しみにしています。平和になりつつあるアフガニスタンにぜひ来てください。」というお誘いを受けた。嬉しかった。実際にアフガニスタンに行きたかったし、イスラム文化圏の子供たちを、肌で感じてみたかったからである。しかし旅の準備を始めてから間もなくして、悪いニュースが届いた。9・11以降、イスラム過激派のタリバーンやアルカーイダグループがアフガニスタンに次々拠点を移したことから、急激に政局は悪化し始め、日本人の入国は特別な関係者以外禁止、滞在の日本人も邦人の誘拐事件なども起こり、やむなく出国しなければならぬ最悪の状態に、あっという間になってしまったのである。どうしてこういう事になってしまったのだろうか？今まで培ってきた事は一体何だったのだろうか？これからこの国の子供たちはどうなってしまうのだろうか？と、そのやるせない気持ちが、帰国後の日ユ協の方と話をして、ひしひし感じられた。もちろん、自分も何もできない。何もわからない。何もしてあげられない。今までこの国は、アメリカやソ連の大国のイデオロギーと権力抗争の犠牲になり、さんざん痛めつけられた悲劇の歴史を持ち、やがてその構図が崩れ、復興という兆しが見えたのもつかの間、偏狭なイスラム教原理を第一に考えるその同胞の侵入により、その芽も摘まれてしまったのである。そして残念ながら、どの国でも、戦争の犠牲になるのは必ず、子供たちだ。彼

らは命を奪われ、両親を奪われ、「憎しみ」は純真な心に培養され、やがてたちの悪い大人たちに利用される。ある者は偏った心を持つ戦士に仕立てられ、ある者は自らの命と引き換えに爆弾という存在にされる。

「憎しみ」という感情から、トカゲに似た大きなしっぽを持った邪悪なモンスターのイメージが広がった。彼は危険が迫ると、自分のしっぽを自ら切り、邪悪な心を捨て、おとなしくなる。しかし、切ったしっぽはやがて生え戻り、失ったかに見えた「憎しみ」はそのしっぽから体中の血管を通り、増殖し、さらに巨大化した邪悪なモンスターに復活していく。

そのイメージを描いてみよう。先輩たちが、祖国の戦争を嘆き、「ゲルニカ」を描き、戦争や、宗教の無い国を想像して「イマジン」を創ったように、純粹に、この行き場の無い気持ちをぶつけた絵を描いてみようとその時思った。遥か遠くにいる、逢いたくても逢えない子供たちの気持ちを思って。



サッカーボールだけが、アフガニスタンに行けない私たちの思いを込めて彼らの手元に届いた。その喜んでいるようすの写真を見た時、思わず涙がこぼれてしまった。聞くところによると、地域によっては、タリバーンなどのイスラム過激派から、テロ戦士として教育される標的にされる子供たちもいるという悲しい話を聞いた。写真は、ユネスコ世界遺産のバミヤンの遺跡にて。

(写真：日本ユネスコ協会連盟)



The chain of hatred / 憎しみの連鎖



The chain of hatred / 憎しみの連鎖

*ユネスコ世界寺子屋運動：世界には、働かなければならなかったり学校が近くなかったりして、学校に行けない子どもが、7,500万人もいます。そして学校に行けずに大人になり、文字の読み書きができない人が7億7,600万人もいます。このような子どもたちや大人が「学びの場=寺子屋」で読み書きや算数を学べるように、教育の機会を提供する運動です。

(ごとう・てつ 視覚デザイン)